

三年 外国の民話

七月三十日一校時

木かげにごろり

山本年秀先生 1/2時間

〈区画〉七区画

第一次指導

二とく

○題目 (絵を見ながら) 人物像(1)

・木(地主) ↓ かげ ←

・ごろり ↑ おひよくしようたち

◎ひびき

・夏から秋へ かげ ごちそう

○手引き

・地主と百姓たちのことを書き出す。

六とく

○事実・区分

・両方書いてあるところは、どちらが先にやったのか。時期はいつか。

・三区分 中二区分

◎山

・一番面白いのどこか。

・地主の姿とお百姓さんたちの喜び

○余韻

・欲張り地主が、親戚にも呆れられ、

大事なご先祖様に絵に描いたお供え

しかあげられなかったんだあ。

〈板書事項〉

木かげにごろり

地主

おひやくしよう

よくばり

1 はたらき者

夏の日

買いとつて

↓ 買いとり

二か月

だまつて

↑ 買ったもの

秋風

お祭り

4 ○

へたりこむ

↑ ねっころがつて

○

6 平らげて

真夜中

そなえた

7 ○

メモ

〈区画〉絵にも番号○

1	p 6 2 四行目	山をこえ	①
2	p 6 3 七行目	ある夏	②
3	p 6 5 七行目	それから	③
4	p 6 7 一行目	秋風	④
5	p 6 7 八行目	ところが	⑤
6	p 7 1 五行目	そうして	⑥
7	p 7 1 十一行目	さて	無

三年 外国の民話

七月三十一日 一校時

木かげにごろり

山本年秀先生 2/2時間

〔板書事項〕

メモ

第二次指導

絵省略

二とく

○おさらい (絵を板書)

- ・木かげが一番伸びたのは何番か。
- ・そこには、何があったのか。
- ・そのご馳走を食べたのは誰か。

◎承接

- ・木かげを買ったのは何時だったか。
 - ・ご馳走を食べたのは何時だったか。
- 手引き
- ・ご馳走をたべる前のお百姓さん達と地主の言葉を書き出す。

六とく

○語義・区分

- ・ひええ とんでもないもの そうれ ごとちそう
- ・「」の中をそれぞれ二区分

◎心

- ・地主が気づいたことの重大性とお百姓さんたちの喜びの対比

○余韻

- ・お百姓さんの生活の知恵は素敵だな。

夏 | 2 買 |
 二 | 3 |
 秋 | 4 祭 |

7 |
 6 平 |

「ひええ」とんでもないものを売ってしまった」
 頭 | へたりこむ

「やったぞ、やった。そうれ、そら。」
 よろこんだ おどり

「あつ、おれたちの木かげにごちそうが入った。」
 平らげて